

**委託事業実施内容報告書**  
**2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**実施内容報告書**

団体名：高岡市

**1. 事業の概要**

事業名称	平成31年度 高岡市「くらしのための日本語事業」
事業の目的	本市多文化共生プランの改訂にあたり、H28年に外国籍市民を対象に実施したアンケートから、成人用の日本語教育機会を求める声や日本人との交流機会に対する要望が高かったことから、平成30年度から「生活者としての外国人」のための日本語教育事業に取り組んだところである。本市にはブラジル系住民を中心として定住者・永住者が多く、日本語の能力が就労に直結するだけでなく、日本で子どもを産み育てる層も多いことから、外国籍市民にとって日本語の習得は大変重要であり、地域住民にとっても日本語はコミュニケーションを図る重要な役割を果たすものと認識している。平成30年度に取り組んだ日本語教育事業の結果を捉え、また、平成30年度の参加者(外国籍市民、ボランティア、地域住民など)の声を活かし、平成31年度においても、日本語を学びたい外国籍市民に必要な日本語教育の機会、地域に参画できるきっかけになるよう地域の人々と交流を行いながら、日本語の習得・実践を行うことのできる機会、また日本語を学びたい外国籍市民のサポート役としての人材育成を行うもの。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	本市の外国籍市民の構成は、中国・東南アジアからの短期滞在の技能実習生、日本人の配偶者、日系ブラジル人や自営業を営む中東出身などの長期滞在者に大別され、様々なレベル・内容の日本語教育が求められている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広く市民に多文化共生の意義を伝え、外国籍市民を取り巻く問題に理解を持つ層を増やし、より多くの支援者を獲得するため、「教育アシスタント」ではなく交流を通じて日本語学習者が参加する日本語教室活動を支援する「交流サポーター」の位置付けで、日本語教室の補助者を養成(取組1:日本語支援ボランティア養成講座)し、その後の活動に繋げることができた。</li> <li>・平成30年度の養成講座を受講し、その後の取組にサポーターとして支援されているボランティアの方の知識を向上する研修会(取組2:日本語支援ボランティア第一期生ブラッシュアップ研修)を開催した。</li> <li>・平成30年度の取組を基本とし、外国籍市民に必要なテーマに沿って会話、よみかきを学ぶ日本語理解プログラム(取組3:生活のための日本語教室)を継続し展開した。</li> <li>・上記のくらしのための日本語教室だけでなく、小学校区単位を目安とした地域密着型の定期的な交流機会を開設して、コミュニケーションを通じた日本語学習機会を提供した。(取組4:地域交流サロン)</li> <li>・SNSやホームページを活用して情報を発信し、外国籍市民の中での日本語学習への興味、日本人住民の中での理解の広がりに繋げた(取組5:「くらしのための日本語事業」情報提供)。</li> </ul>
事業の実施期間	2019年5月～2020年3月(11か月間)

**2. 事業の実施体制**

**(1) 運営委員会**

**【運営委員】**

1	濱田 美和	富山大学国際交流センター 教授
2	中河 和子	トヤマ・ヤポニカ 代表理事
3	木口 実	富山日伯交流友の会 会長
4	野原 恵美	高岡市日中友好協会 会員
5	高木 達郎	高岡市連合自治会 理事 高岡市多文化共生推進委員会 委員
6	秦 美代子	牧野校下女性連絡会 会長
7	竹中 伸行	高岡商工会議所伝統産業部会長 高岡市多文化共生推進委員会 委員
8	梅崎 幸弘	高岡市市民生活部 部長



**【概要】**

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年7月29日(月) 9:30～10:30	1時間	高岡市役所	濱田委員、中河委員、木口委員、野原委員、高木委員、秦委員、竹中委員、梅崎委員	1. 高岡市「くらしのための日本語事業」の概要について 2. ふれあい日本語教室(昨年度事業により設立された日本語教室)について
2	令和元年12月27日(金) 10:00～11:00	1時間	高岡市役所	濱田委員、中河委員、木口委員、秦委員、竹中委員、梅崎委員	1. 日本語教育事業の取り組み状況について ・日本語支援ボランティア養成講座 ・第1期生ブラッシュアップ研修 ・生活のための日本語教室 ・地域交流サロン
3	令和2年3月13日(金) 13:00～14:00	1時間	高岡市役所	濱田委員、中河委員、木口委員、野原委員、高木委員、竹中委員、梅崎委員	1. 生活者としての外国人のための日本語教育事業実施報告について ・日本語支援ボランティア養成講座 ・第1期生ブラッシュアップ研修 ・生活のための日本語教室 ・地域交流サロン ・「くらしのための日本語事業」情報提供 2. 全取り組み結果の講評等

**(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力**

連携体制	<p>富山大学 留学生等への案内や学生への周知を依頼                  地域の外国人団体・コミュニティ 外国籍市民への周知やニーズ把握について協力依頼                  国境なきUNDOKAI実行委員会 市内の外国人コミュニティ等の状況把握、情報周知について連携                  高岡市商工会議所 雇用企業を通じ被雇用者への案内について協力依頼                  高岡市多文化共生庁内推進会議 外国籍市民への日本語理解ニーズについて情報共有                  野村地区連合自治会・高岡市立成美小学校PTA・成美ひばり地域活動クラブ 地域交流サロンの実施について連携</p>
------	---

**(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制**

本事業の実施体制	<p>トヤマ・ヤポニカの講師の方には、これまでの経験を活かし、日本語学習の支援者養成を第一として指導していただいた。(取組1)                  (取組2)養成講座の修了者及びボランティア登録者が実際の日本語教室(取組3)で補助者として活動することにより、日本語指導者の指導を見ながら学ぶ時間にもなり、支援者の核となりうる熟意と素養を持った人材育成につながった。                  コーディネーターの高木氏、松田氏、川淵氏は、地域交流サロン(取組4)の中心となり、地域で主体的に交流を図り、企画する土壌作り、また地域課題の発掘や地域内広報を担った。                  コーディネーターの南は事業担当者として、全事業を対象に内容企画や外部及び庁内の連携調整、参加対象層への情報提供及びニーズ把握、広く市民に向けた情報発信(取組5)と啓発及び各取組ごとの連携を含む事業の進行管理を行った。</p>
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称	日本語支援ボランティア養成講座										
取組の目標	多文化共生の理念および地域での外国籍市民とのコミュニケーションの重要性を理解し、日本語学習サポートを行うことのできる「日本語支援ボランティア」の養成を図る。										
取組の内容	日本語を学びたい外国籍市民への支援や学習サポート、地域との交流の橋渡しができる人材を養成した。本市では、外国籍市民の定住化が進んでいるが、日本人との交流機会がまだまだ少ないこと、また日本語教育に携わる人材も十分であることから、日本語教育・日本語指導と上段から構えず、外国籍市民と日本語で交流し、日本語を使ってコミュニケーションを取る機会の提供と捉えて、寄り添える人材の育成を行い、関与する人材の裾野を広げた。人材の活用については、指導講師およびコーディネーターとともに、日本語学習者の支援ができるように、ボランティアの方の適性等を見極めながら効果的な活用に努めた。養成講座の内容は、「本市の外国籍市民の現況」、「日本語があまりわからない人とのコミュニケーション」、「ボランティア活動で大切なこと」などで、中河和子氏ほかトヤマ・ヤボニカの方に講師を務めていただいた。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	外国籍市民の日本語理解・日本人との交流に対するニーズを認識し、本市事業における取り組みのほか、それぞれの地域での交流の橋渡し役としても活動できる人材の育成を行った。日本語教育人材が乏しい地域であるため、熱意があり、できるだけ今後長く携わることのできる人材獲得に努め、結果、10人の方が日本語支援ボランティアとして登録された。										
取組による日本語能力の向上	外国籍市民の日本語学習者の支援者を増やすことで、相互のコミュニケーションの機会を増やすことができ、また、支援者にコミュニケーションの取り方や、わかりやすい日本語を教えることにより、(講座で学ぶ)外国籍市民とのコミュニケーションが図られ、日常生活で必要となる日本語習得の早期上達に繋げることができた。今後、支援人材を増やし、優れた指導人材発掘に繋げていきたい。										
参加対象者	高校生以上、日本語で支障なく生活できる非日本語母語話者を含む					参加者数 (内 外国人数)	20人( 0人)				
広報及び募集方法	市広報紙・HP等で周知した。そのほかチラシを作成し、市内関係施設に配布し募集を行った。										
開催時間数	総時間 30時間(空白地域 時間)					内訳 2.5時間 × 12回					
主な連携・協働先	トヤマ・ヤボニカ、高岡市国際交流協会										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
※該当する場合のみ										20	
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和元年6月8日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	20	オリエンテーション/ 私たちの身近にいる 外国人の状況他	・オリエンテーション ・自己紹介 ・私たちの身近にいる外国人の状況 ・地域の日本語教室	田上 栄子				
2	令和元年6月15日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	19	日本語支援の対話について	日本語支援の新しい形を知ろう —対話中心の活動—	田上 栄子				
3	令和元年6月22日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	20	対話活動の実習	実習 ・事前ミーティング ・活動として経験 ・振り返り	田上 栄子				
4	令和元年6月29日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	17	実習の振り返り	対話中心の活動で大切なこと —実習の振り返り—	田上 栄子				
5	令和元年7月6日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	19	日本語の構造を知る(1)	より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(1) —わかりやすく、やさしい日本語で話すこと の大切さ—	田上 栄子				
6	令和元年7月13日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	15	高岡市の状況 日本語の構造を知る(2)	高岡市の状況を知ろう —高岡市の日本語教育事業の概要— より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(2) —日本語の何が難しいのか、暮らしに必要な日本語とは—	田上 栄子 高岡市多文化共生室				
7	令和元年7月20日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	17	日本語の構造を知る(3)	より良い支援のために 日本語の基本的な構造を知る(3) —わかりやすく、やさしい日本語で話すこと の大切さ—	松岡 裕見子				
8	令和元年7月27日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	16	外国の子どもたちへの支援	外国にルーツを持つ子どもたちへの支援	田上 栄子				
9	令和元年8月3日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	17	対話活動の実際	やさしい日本語で行う対話活動の実際 —より良い支援のために—	中河 和子				
10	令和元年8月10日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	15	読めない・書けない人への支援	読めない・書けない人に対してできること	高島 智美				
11	令和元年8月31日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	14	読み書き支援体験	読み書き支援活動を体験してみよう	高島 智美				
12	令和元年9月7日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市役所	18	日本語支援活動について	日本語支援活動に参加しよう —講座全体をふりかえる ボランティア活動で大切なこと—	田上 栄子				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和元年6月15日】

新しい日本語支援活動の教授法として「対話中心の活動」の可能性について学んだ。対話活動に必要なスキルについて事例から考え、「対話中心の活動」におけるボランティアの基礎力は、「①ネタを生かして、活動を盛り上げる力、②相手に寄り添って聴く力、伝える力である」との講義を受けた後、同じ話題で話を続けるシミュレーションを行い、話題マップを作成した。



○取組事例②

【第9回 令和元年8月3日】

これまで学んだ日本語の基本的な構造について復習し、実際にやさしい日本語での会話文を作成した。実際の対話活動について、様々な種類の言語教育の教材を見比べ、対話活動ワークシートの分析を行った。その後、受講者でペアになり、外国人学習者役と日本人サポーター役となり、対話の模擬活動を実践した。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者20名のうち、ボランティアとして登録された方が10名、検討すると答えられた方が8名、登録しないと回答された方が1名であった(欠席者1名は未回答)。検討すると回答された方の中にも、できれば日本語教育に関わりたいと考えている方がおり、アンケートの回答に関わらず、取組3の活動に参加していただくこととなった。  
なお、講座終了後のアンケートでは、「日本語をわかりやすく話し、伝えるということの難しさを知った。」「対話中心の活動の大切さがわかった。」などの意見があり、支援者として話すことのポイントなど、講座の目的や心構えが理解できたものととらえた。

(3) 今後の改善点について

養成講座では20名の参加をいただいたものの、ボランティアに登録すると回答された方は半数だったため、日本語学習者の支援や地域の交流に資する人材を確保するため、引き続き日本語支援ボランティア養成講座を行うには、多くの人が支援者として受講するよう、受講者の興味を引きつけるよう受講者のニーズも考慮しカリキュラムを構成する。受講後に意見交換を行うのも良いと考える。

＜取組2＞											
取組の名称		日本語支援ボランティア第一期生ブラッシュアップ研修									
取組の目標		平成30年度に実施したパートナー養成講座修了者で支援ボランティアとして登録された方を対象に、日本語支援者としてのスキルをさらに高めるとともに、取組3の日本語教室での日本語支援者としての知識を高めるための研修会を開催する。									
取組の内容		日本語を学びたい外国籍市民への支援や学習サポートとして昨年度登録された支援ボランティアの人材を育成するため、支援者として学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫できるよう、やさしい日本語の作り方や日本語学習支援に関する知識の向上を図った。 取組1の修了者の先輩として、平成30年度に取り組んだ日本語教室の成果や経験談、昨年の日本語教室終了後に設立した日本語教室での支援の活動について、取組1で話す機会も設けた。 また研修では、支援者としての知識、技能の向上を図るとともに、学習者の学びに寄り添える理解力や自身の意識を高め、柔軟性を育んだ。									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		外国籍市民の日本語理解・日本人との交流に対するニーズを認識し、本市事業における取り組みのほか、地域での交流の橋渡し役としても活動できる人材を育成した。日本語教育人材が乏しい地域であるため、今後長く携わることができるよう人材育成に繋げた。									
取組による日本語能力の向上		会話を優先した支援者を増やすことで、トレーニングの機会を増やすことができ、会話を中心とした日常生活で必要となる部分の早期上達に繋げることができた。今後、支援人材をより多く確保することで、優れた指導人材発掘に繋げたい。スキルアップすることにより、外国籍市民へのわかりやすい日本語支援ができ、能力の向上につながる。									
参加対象者		平成30年度養成講座修了者			参加者数 (内 外国人数)		7人( 人)				
広報及び募集方法		日本語支援ボランティア養成講座第一期生修了者に直接連絡した。									
開催時間数		総時間 5時間(空白地域 時間)			内訳 2.5時間 × 2回						
主な連携・協働先		トヤマ・ヤポニカ									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ											7
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和元年9月21日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	6	やさしい日本語	やさしい日本語で話そう	要門 美規				
2	令和元年11月3日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	6	進行案を作る	「ふれあい日本語教室高岡」の活動をつくる	田上 栄子				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年9月21日】  
「やさしい日本語」の作り方として、外国人の立場に立って日本語の難しさを考え、「やさしい日本語」の使い手になるには日本語に関する知識と訓練が必要であるとの講座内容だった。「やさしい日本語」の話すときのポイントについて学び、実際のシチュエーションを想定して「やさしい日本語」で会話を行った。



○取組事例②

【第2回 令和元年11月3日】  
第一期生が立ち上げた日本語教室の活動での課題について話した。教室での対話のテーマを決めるにあたって大切なこととして、外国人参加者の関心やニーズを感じ取ることの大切さや、事後ミーティングで問題解決の方向や方法をみんなで考えることの重要性について学んだ。教室の進行案を作成するにあたり、活動の目標を設定することや、進行案作成の手順や全体の流れのモデルなどについて学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

昨年の当事業の日本語教室において支援を行い経験を重ね、教室終了後も自ら日本語教室を立ち上げ活動をしている第一期生の知識・技術の向上を図ることができた。個人のスキルアップが図られ、教室運営の強化にもつながった。  
また自分たちの日本語教室での課題を話し合うことで、教室の運営についてみんなで考え、今後の活動に繋げることができた。

(3) 今後の改善点について

ブラッシュアップ研修は2回開催したが、予定が合わずに参加できない方もおられた。今後は開催回数や時期を検討するなどして、ボランティア養成講座修了者が知識・技能を高める機会を増やし、ボランティアとして継続的に活動し日本語教室が持続的・安定的な運営できるようにしたい。

＜取組3＞											
取組の名称		生活のための日本語教室									
取組の目標		地域住民とコミュニケーションを図るため、生活に必要な日本語を習得するためのコミュニケーションを中心とした会話による学習や生活に必要な日本語のよみかきを学ぶ機会を提供する。									
取組の内容		本市に居住する外国籍市民は、短期滞在者と定住傾向のある長期滞在者に大別され、それぞれ日本語教育に対するニーズが異なっている。昨年度実施した日本語教室の実績を踏まえ、外国籍市民にとって受講しやすい内容とした。昨年度に引き続き、日本語教師とコーディネーターの助言を得ながら、サポーターを補助者として、日本語学習者に、聞いて話す日本語教室とひらがなや漢字のよみかきを学ぶ教室を開催した。生活していくうえで必要となるテーマを定めて「友達」「休日」「自分の好きなもの」「実現したいこと」「防災」「日本の物価」「年中行事」など、身近で話しやすい内容の日本語教室を開催した。受講者の日本語能力のレベルが異なっているため、クラスを初級と普通クラスに分け、外国籍市民のレベルに応じた教室とした。また日本語教師の指導の下、サポーターが日本語教室のテーマを考え資料の作成や進行を行った回数も設けた。日本語学習者と指導者、サポーターがコミュニケーションを図れるよう努めた。									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		自己紹介や日々の暮らしなど話しやすい内容、また「回覧版」や「学校からの案内文」など生活に必要な日本語文書の識字など、生活に必要なテーマに沿って日本語を学習できることにより、日本語を学ぶ有用性や達成感を促し、次の学習への意欲向上につなげることができた。日本語を学ぶことにより言葉の壁が低くなり、職場や地域などで市民とのさらなるコミュニケーションを生み出すことができたと感じている。									
取組による日本語能力の向上		日本語をある程度理解できる者も少なくなく、家族に日本語話者の居る外国籍市民からの日本語習得ニーズも高いことから、初心者だけでなく長く滞在している人にとっても、必要性のある分野を優先的に選んで有効に学習することができた。また、受講者自身の生活に密着した部分を集中的に学び、「役に立った」と感じてもらうことができ、さらなる学習への意欲につながったものと感じている。									
参加対象者		外国籍市民及び外国にルーツを持つ学生、非日本語母語話者				参加者数 (内 外国人数)		55人(55人)			
広報及び募集方法		市広報紙およびHP、SNS、外国人団体等のネットワークにより広く募集した。チラシを作成し、企業へ周知を行うとともに、市内関係機関・施設に配布し募集を行った。									
開催時間数		総時間 37.5時間(空白地域 時間)				内訳 2.5時間 × 15回					
主な連携・協働先		トヤマ・ヤポニカ、高岡市国際交流協会、高岡商工会議所、国境なきUNDOKAI実行委員会									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		11		4	23		4	4		5	
※該当する場合のみ		アメリカ(1人)、アルバニア(1人)、オーストラリア(1人)、フランス(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和元年9月15日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	16	わたしを伝える	受講者へのインタビュー「さあ、はじめよう」「〇〇さんは、こんな人」	要門 美規	中河 和子(指導補助者) サポーター14名			
2	令和元年9月22日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	18	わたしを伝える	「好きな時間」	高島 智美	サポーター13名			
3	令和元年10月6日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	18	文法 生活を見直す	「文法(助詞)」「ストレス☆解消! ~ストレス解消法を紹介し合おう~」	田上 栄子	要門 美規(指導補助者) サポーター13名			
4	令和元年10月27日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	22	災害	「水害から身を守る」	要門 美規	田上 栄子(指導補助者) サポーター10名			
5	令和元年11月10日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	16	識字	「識字(回覧板、お知らせを読もう)」「識字①(生活の中の漢字)」	田上 栄子	要門 美規(指導補助者) サポーター12名			
6	令和元年11月24日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	9	生活を見直す わたしを伝える	「休みの日」「実現したいことー夢ー」	田上 栄子	松岡 裕見子(指導補助者) サポーター10名			
7	令和元年12月1日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	9	識字	「識字(私たちにできること)」「識字②(生活の中の漢字)」	要門 美規	中野 香保里(指導補助者) サポーター12名			
8	令和元年12月15日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	7	わたしを伝える	「わたしの夢」「子ども時代について話そう」	田上 栄子	要門 美規(指導補助者) サポーター13名			
9	令和元年12月22日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	7	文法 わたしを伝える	「文法(文構造)」「わたしの”今年の漢字”」	要門 美規	中野 香保里(指導補助者) サポーター8名			
10	令和2年1月11日(土) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	5	生活を見直す 関係づくり	「買い物」「わたしの一日」「友だちのこと~友だち・友情について考える」	田上 栄子	要門 美規(指導補助者) サポーター11名			
11	令和2年1月19日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	18	生活を見直す 文法 関係づくり	「休日」「文法」「友だちを作ろう~外国人と日本人、なかよくなる?~」	海老江 絢香	要門 美規(指導補助者) サポーター12名			
12	令和2年1月26日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	12	識字	「識字(ステレオタイプってなんですか)」「識字③(生活の中の漢字)」	要門 美規	中野 香保里(指導補助者) サポーター9名			
13	令和2年2月9日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	11	わたしを伝える	「わたしの町」「わたしの大切な年中行事と食事」	中河 和子	要門 美規(指導補助者) サポーター9名			
14	令和2年2月16日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	12	わたしを伝える 地域で暮らす	「わたしが好きなもの」「日本の生活 高い?安い?」	中河 和子	要門 美規(指導補助者) サポーター11名			
15	令和2年2月23日(日) 10:00~12:30	2.5	高岡市ふれあい福祉センター	11	わたしを伝える 文法	「いろいろなプレゼント」「わたしの家族」「文法」	田上 栄子	要門 美規(指導補助者) サポーター12名			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第4回 令和元年10月27日】  
「水害から身を守る」をテーマに、水害について話すときによく使われる言葉や気象情報・避難情報の日本語を学んだ。外国人受講者とサポーターがグループになり、台風19号の被害や情報の入手方法、洪水ハザードマップの見方、水害から身を守るためにどうすればいいかを話し合った。その後、サポーターがやさしい日本語を使って質問し、外国人受講者が日本語で発表した。



○取組事例②

【第14回 令和2年2月16日】  
日本の物価をテーマに、日本と母国でのものの値段の違いや自分のお金の使い方について話し合い、グループ毎に発表を行った。この回は、サポーターが教室の資料の作成や運営・進捗を行った。また初級クラスでは、「わたしが好きなもの」をテーマに会話や読み書きを学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

外国人受講者とサポーターがグループになり会話を行う形式の日本語教室を開催した。サポーターはやさしい日本語で外国人受講者に話しかけ会話を引き出し、和やかな雰囲気の教室となった。外国人受講者からは、「教室で発表するときや家族・友達・職場の人と話すと日本語が上達したと実感することができた」「教室を受講する前よりも病院や郵便局、買い物場面等で日本での生活ができるようになった」との感想があった。さらに、日本語がもっと上手になりたいという意欲の向上にもつなげることができた。

(3) 今後の改善点について

日本語教室を開催した当初は外国人受講者が多く、適度な支援体制が確保できなかったため、円滑で適度な学習支援を行えるよう、更なるサポーターの人材確保に努める。

＜取組4＞											
取組の名称		地域交流サロン									
取組の目標		日本語でのコミュニケーションを通じ、会話による日本語習得や生活者としての日本語について習熟を深め、日常生活についても近隣住民と交流しながら、地域活動に参画し、安定した生活基盤を作ることのできる外国籍市民の増加に繋げる。交流の中では、やさしい日本語で会話し、日常に必要なひらがなや漢字の使った単語など日本語習得につなげる。									
取組の内容		本市はほぼ全域に外国籍市民が居住しており、中でも外国籍市民の割合が高い地域(旧小学校単位＝市立公民館設置単位)において、定期的な日本語でのコミュニケーション機会を設置した。運営主体は地域組織によるものとし、地域の実情に応じ、地域課題の解決や参加者同士の交流拡大を行いつつ、日常生活に必要な日本語の習得・向上に繋げることができた。2地域で開催し、日本文化の紹介や料理・ものづくり教室、踊りの体験等をしなが地域住民との会話・交流を行い、地域での交流の拡大を図った。									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		設置区域の住民で構成される地域団体が連携し、企画運営を行った。									
取組による日本語能力の向上		日本文化の紹介や料理・ものづくり教室、踊りの体験等を通して、コミュニケーションを取りやすい環境をつくることで、地域住民とのやさしい日本語での会話が生まれ、日常で使う日本語を学んだ。また、日本での生活の中で知らなかったことやわからなかったことを聞く機会になるとともに、地域での活動への参加につながった。									
参加対象者		地域住民				参加者数 (内 外国人数)		309人(75人)			
広報及び募集方法		地域で作るチラシ・案内文等を通じて広報を行った。また、学校を通して案内文を配布するなど周知に努めた。市SNS、外国人団体等のネットワークを通じても周知を図った。									
開催時間数		総時間 21時間(空白地域時間)				内訳 3時間 × 7回 ※事業計画の24時間中3時間分は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため取りやめとなった。					
主な連携・協働先		野村地区連合自治会、高岡市立成美小学校PTA、成美ひばり地域活動クラブ									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		6		51						12	234
※該当する場合のみ		アメリカ(5名)、カナダ(1名)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和元年8月25日(日) 8:30～11:30	3	野村公民館	96	防災講演会(野村地域)	野村地区防災講演会で講演を聞き、外国籍市民と地域住民が防災についての知識を深める	高木 達郎	木口 実(通訳(指導補助))			
2	令和元年12月8日(日) 9:30～12:30	3	野村公民館	26	料理教室(野村地域)	糖尿病予防、低栄養予防の食事を一緒に作り交流する	高木 達郎	木口 実(通訳(指導補助))			
3	令和元年12月26日(木) 9:00～12:00	3	野村公民館	41	干支づくり教室(野村地域)	親子が令和2年の干支であるねずみを管で一緒に作り交流する。	高木 達郎	木口 実(通訳(指導補助))			
4	令和2年1月25日(土) 9:00～12:00	3	成美小学校	38	お正月の紹介(成美地域)	日本のお正月について紹介し、親子が一緒にお正月のゲームを楽しみ交流する。	松田 崇尚	横川 和明(指導補助) 桜井 倫子(通訳(指導補助)) サポーター2名			
5	令和2年1月29日(水) 18:00～21:00	3	野村第四公民館	34	おわら踊り体験(野村地域)	富山県の民謡の踊りの体験をし交流する。	高木 達郎	木口 実(通訳(指導補助))			
6	令和2年2月8日(土) 18:00～21:00	3	成美公民館	33	子どもの問題についての話し合い(成美地域)	ひきこもりなど子どもの問題についての講演を聞き、話し合う。	川淵 郁子	桜井 倫子(通訳(指導補助))			
7	令和2年2月22日(土) 9:00～12:00	3	成美小学校	41	おにぎりづくり(成美地域)	日本の食文化について紹介し、親子が一緒におにぎりをつくり交流する。	松田 崇尚	横川 和明(指導補助) 桜井 倫子(通訳(指導補助)) サポーター1名			



(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回 令和元年12月8日】

料理教室(野村地域)

野村地域の食生活改善推進員が、外国籍市民の参加者に日本語で料理の作り方を教えた。外国籍市民からの質問に対して食生活改善推進員が答えたり、参加者同士が「おいしくなーれ」と一緒に声をかけて調理をするなど、活発なコミュニケーションが図られ、和やかで楽しい雰囲気であった。その後、調理をしたグループごとにテーブルで食事をを行い、自己紹介や料理の感想を日本語で行った。



○取組事例②

【第4回 令和2年1月25日】

お正月の紹介(成美地域)

成美小学校の日本人の親子と外国籍市民の親子がいくつかのグループに分かれ、自己紹介を行ったあと、日本のお正月に関する説明(門松、鏡餅、コマ回し、凧揚げなど)を行った。外国籍市民は熱心に説明を聞き、しめ縄の意味など日本での生活の中でわからなかったことへの理解が深まった。その後、自分で目や鼻や口などのパーツを描いて福笑いを行った。外国籍市民が福笑いをするときには日本人がパーツを手渡し、「目」「鼻」などの日本語を用いて誘導するなど楽しい雰囲気となった。



(2) 目標の達成状況・成果

地域住民と外国籍市民の交流を2地域で計7回開催した。地域住民は外国籍市民との交流の企画運営がうまくいか心配だったが、実際に交流してみると楽しい雰囲気になり、外国籍市民とやさしい日本語でのコミュニケーションすることができた。料理教室では、日本人から外国の料理を教えてもらいたいという声もあがり、互いの文化を理解しようという意欲が高まった。

アンケートでは、日本人からは「外国の方と一緒に活動や話ができ楽しかった。」「これからもこのような機会があったらいい。」「日本の文化を伝えられてよかった」との感想が、また外国籍市民からは「食文化の違いなどすごく勉強になった。」「たくさんの人と話ができうれしかった。」「仲良くなりたい。」という感想があり、多文化共生の意識が醸成された。

また、地域交流サロン後に、外国籍市民から地域住民が活動している教室に参加したいという希望が出るなど、外国籍市民が地域に溶け込むきっかけとなった。

(3) 今後の改善点について

地域においては、どこにどのような外国籍市民が住んでいるのか把握することが課題となっており、このような交流事業に外国籍市民を集めることが難しいため、外国籍市民のキーパーソンが重要であることから、更なる人材の発掘・育成に努めたい。

参加する外国籍市民の日本語のレベルが異なり、レベルによっては地域住民とコミュニケーションを図ることが難しいこともあるため、日本語の程度に左右されない交流内容の工夫や、日本語支援ボランティア等のサポート体制が必要である。

今後も地域での交流事業が継続して行えるよう支援を行っていく。



(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【令和元年8月】  
高岡市ホームページ及び多文化共生室Facebookで取組3の日本語教室の募集を行った。インターネットで日本語教室の情報を知って申し込んでくる外国人参加者も多く、日本語教室の周知を効果的に行うことができた。



○取組事例②

【令和2年2月22日】  
成美地域交流サロンについて開催案内を行った。「いいね」などの評価のほかに、地域の外国籍市民がシェアし広く情報が周知されるなど、SNSに投稿することの強みを感じることができた。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語教室の外国人受講者のほかに、地域や職場の日本人支援者にもホームページ等で日本語教室のことを知った方が多く、外国人の日本語習得への関心の高まりを感じられるとともに、日本語学習機会の情報提供で大きな役割を担うことができた。

(3) 今後の改善点について

地域の外国籍住民や日本語教室の参加者などから、SNSの記事に対して評価を受けたりシェアされるなど反響が良かったため、今後は回数を増やしていきたい。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

本市多文化共生プランの改訂にあたり、H28年に外国籍市民を対象に実施したアンケートから、成人用の日本語教育機会を求める声や日本人との交流機会に対する要望が高かったことから、平成30年度から「生活者としての外国人」のための日本語教育事業に取り組んだところである。本市にはブラジル系住民を中心として定住者・永住者が多く、日本語の能力が就労に直結するだけでなく、日本で子どもを産み育てる層も多いことから、外国籍市民にとって日本語の習得は大変重要であり、地域住民にとっても日本語はコミュニケーションを図る重要な役割を果たすものと認識している。平成30年度に取り組んだ日本語教育事業の結果を捉え、また、平成30年度の参加者（外国籍市民、ボランティア、地域住民など）の声を活かし、平成31年度においても、日本語を学びたい外国籍市民に必要な日本語教育の機会、地域に参画できるきっかけになるよう地域の人々と交流を行いながら、日本語の習得・実践を行うことのできる機会、また日本語を学びたい外国籍市民のサポート役としての人材育成を行うもの。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室では、外国籍市民とボランティアの方の良好なコミュニケーションが図られた。ボランティアの方は、日本語教室でサポーターとして参加することについて、実際に支援できるか不安な気持ちがあり、最初は見学してからボランティア登録を考えるとという方もいたが、日本語教室での経験を重ね、最後までサポーターとして継続されるなど、人材の確保・育成に繋がった。ボランティアの方には、外国籍市民に寄り添って日本語支援を行うことの重要性を理解していただくことができたと感じている。また、来年度以降の継続的な活動にもつながったことが成果と捉えている。地域交流サロンでは、地域住民と外国籍市民とコミュニケーションを図るきっかけの場となり、実際に交流していただくことにより多文化共生の重要性についての意識の醸成を図ることができたと感じている。これを機会として、今後の地域での継続的な交流につながっており、今後も継続していきたい。

##### (3) 地域との関係者との連携による効果、成果等

地域交流サロンの開催にあたり、自治会、PTA、母親クラブ等地域団体と連携し、企画運営の協力体制が図られた。

##### (4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

外国人を雇用している企業へ向かい周知した。本市の外国籍市民の多くを占めるブラジル、中国など外国人キーパーソンと連携し、周知に努めた。国際的な交流事業や大学等でのPR、外国人向けの情報誌等にも掲載した。そのほか、ホームページやフェイスブックでも情報発信を行った。受講生の口コミからの申込も多かった。

##### (5) 改善点、今後の課題について

日本語教室の開催にあたっては、受講生の日本語能力のレベルに差があることから、受講する外国人の状況を見極めて内容を定める必要がある。今回の日本語教室では外国人受講者が大変多く、開講当初はサポーターの数が不足しており、教室の円滑な運営体制をとることが難しかった。対話式教室ではサポーターとマンツーマンで会話できるきめ細やかな支援体制を整えることが重要であることから、日本語支援ボランティアの人材確保に努める。また、これまでのボランティア養成講座の修了者が、地域での日本語教室の立ち上げや継続的な運営ができるよう、知識・技術の向上や運営体制の構築面など引き続き支援を行う必要がある。地域交流サロンについては、地域住民の言語面や文化の違いからコミュニケーションを図ることができるといった不安があることから、企画立案や運営に対する支援が必要である。また外国籍市民の参加を促すための魅力的な内容や、地域住民と外国籍市民が交流しやすく、また交流の中で日本語を学習してもらえるような内容を企画することも重要である。地域交流サロンでは、地域に暮らす外国籍市民を把握することが難しく、参加者を集めることに苦労した中で、日本語教室では受講した外国籍市民の口コミ・ネットワークから受講者が増えていく面もあった。今回の取り組みから得られたネットワークを活かし、今後の取り組みにつなげるとともに、ホームページで日本語教室の存在を知ったという声もあったことから、情報発信ツールを活用し引き続き広く周知を図っていきたい。

##### (6) その他参考資料

- ・日本語支援ボランティア養成講座受講者募集チラシ
- ・生活のための日本語教室受講者募集チラシ
- ・地域交流サロン(野村地域)参加者募集チラシ
- ・地域交流サロン(成美地域)参加者募集チラシ